

みんな
で
考
え
よ
う、
白
老
の
こ
と、
未
来
の
こ
と。



ウイマム文化芸術プロジェクト2018
パブリックミーティング

共生の方法 Always Living Together

地域、アート、
多様性・多文化共生

2018年7月22日(日)・9月16日(日)

「ウイマム-uymam-」とは？

アイヌ語で「交易(※)」を表す。特に初期ウイマム(1600年代初期)は人と人、集落と集落、アイヌと他国・地域等、相互の目的や利益を叶えるための対等な交換儀礼であり、文字を持たぬアイヌにとってモノだけでなく精神文化の面でも重要な交流であったとされる。

※参考辞典：「アイヌ語沙流方言辞典」田村すず子、草風館／「アイヌ語千歳方言辞典」中川裕、草風館／「萱野茂のアイヌ語辞典 増強版」萱野茂、三省堂

文化庁委託事業「平成30年度戦略的芸術文化創造推進事業」
主催：文化庁、ウイマム文化芸術実行委員会
企画制作：ウイマム文化芸術実行委員会

後援：北海道教育庁胆振教育局、白老町、白老町教育委員会、一般社団法人白老観光協会、
NPO法人北海道遺産協議会、白老町商工会、協同組合白老商業振興会、虎杖浜竹浦観光連合会、
一般社団法人白老青年会議所、室蘭民報社、苫小牧民報社、北海道新聞苫小牧支社、読売新聞社苫小牧支局

協力：飛生アートコミュニティ / NPO法人S-AIR / M gene Design / ウタウカンパニー株式会社

お問い合わせ：info.uymam@gmail.com
https://uymam.localinfo.jp/

2020を迎えるシラオイ。 世界からの注目を浴びるSHIRAOI。 多文化共生の実現を掲げる白老。

この町の地域資源、生活や営み、土地の文化を活かして、私たちにはどんな取り組みやまちづくりができるでしょうか? 「ウイマム文化芸術プロジェクト」は、そのような問いから生まれました。

価値観や志、生活環境、生まれ育った場所や仕事の考え方は一人ひとり異なります。隣町だって、近いようで違います。この違いを認め合い、違いが面白みになるような社会に、私たちは希望や期待を感じます。

今回の「パブリックミーティング」では、各地域で文化プロジェクトを実践し、時に「多文化共生」と向き合ってきた方々をお招きしました。町に暮らす皆さんと、各地域の事例やヒント、アイデアを共有し、未来のシラオイを一緒に考える場になればと思っています。

ウイマム文化芸術実行委員会一同

Ways of Living Together

第1部：事例報告

“アート×まちづくり”のいろいろな形

パネラー：加藤種男さん
(総務省地域力創造アドバイザー)

地域社会を元気にするために、文化に着目する活動が全国で多数取り組まれています。こうした地域のまちづくりアート活動がどれほど大きな成果を上げていくか、全国各地の事例を紹介しながら、白老のこれからを考えます。



世界中どこでもヒントはある。フィンランドで菜の花に埋もれて。

海外につながる子どもたちのプロジェクト

パネラー：蔭山ヅルさん
(ART LAB OVA)

Art Lab Ovalは、多文化な下町にある独立系映画館の隣に拠点を移したことをきっかけにアートスペースを路面店的にオープン。そしてその後、近隣の子どもたちに場を無料で開放するようになったプロセスと現状をお話します。



帽子おじさんショー-2015

文化と社会の「生態系」とは?

パネラー：大澤寅雄さん 7/22, 9/16両日参加
(文化生態観察 / アートNPOリンク理事)

文化と社会の関わり方を「生態系」と捉えて観察しています。福岡県糸島市の「糸島芸術」という芸術祭に関わりながら、マレビト(稀人)としてのアーティストとマレビト(客人)が出会う場や装置についてお話しします。



糸島芸術の風景

パブリックミーティング 第1回

日時 2018年7月22日(日)
14:00~17:00 (30分前開場)

参加費 無料

会場 しらおい創造空間「蔵」
多目的ホール
(北海道白老郡白老町本町1丁目7-5)
駐車場に限りがございますので、公共交通機関及び徒歩にてご来場ください。

白老アーティスト・イン・レジデンスの可能性

パネラー：柴田尚さん
(NPO法人S-AIR代表 / AIRネットワークジャパン代表)

1999年設立のS-AIR(札幌)では、国内外のアーティストを招へいし滞在制作してもらう「アーティスト・イン・レジデンス(AIR)」プログラムを運営しています。2015年には全国のAIR団体をつなぐ「AIR ネットワークジャパン」を立ち上げました。日本のAIRはこの20年間でどのように変化したのか、白老でのAIRの可能性を探ります。



2017年度の招へいアーティストが白老モニターツアーで参加したWSより。

第2部：意見交換 第1回・2回 共通

ウイマム文化芸術プロジェクトって?

パネラー：木野哲也 進行：大澤寅雄さん
(ウイマム文化芸術プロジェクト ディレクター / TOBIU CAMP ディレクター)

最初に、今年から白老町内で実施される「ウイマム文化芸術プロジェクト」の内容についてご紹介。そのあとは、大澤さんが進行役となり、ゲストや会場の皆さんと意見交換。どなたでも幅広い世代の方々に参加してもらえる場をつくりたいと思います。「こんな工夫をすると

もっと面白くなるのでは?」「自分もこんな風に関わることができるかも」「自分の地域はこんな面白い人がいる」「おじいさんにこんな伝説を聞かされたことがある」などと、第1部の話も参考に、地域の資源、町の課題などもふまえてアイデアを出し合しましょう。

第1部：事例報告

旅することで土地と人ともに祭りを生み出す

パネラー：杉原信幸さん
(美術家 / 信濃の国 原始感覚美術祭ディレクター)

白老の湖、ポトコタンの忘れがたい聖地の気配、その地がウイマムとなる必然。縄文時代の交易は、旅と贈与に開かれていました。ヒスイの美しい魂の造形、旅する「マレビト」は、どのように土地の精霊を宿らせ、また土地へと運んで行くのか。その往還について話せればと思います。



「原始感覚獅子舞」田口ランディ、杉原信幸、佐藤謙、浅井真至 / 2017年

人に会い、声を聞き、語り合い、そこから、社会を考え、芸術をつくりだす。

パネラー：羊屋白玉さん
(「指輪ホテル」芸術監督、劇作家、演出家、俳優)

国内外の現代美術の芸術祭に招聘され、その土地の象徴的な場所、例えば海や列車や庭園などで演劇作品を発表。最新作の地はニューヨーク。ベトナム戦争の混乱の中、ポトピーブルでアメリカへ渡った女性たちのインタビューから戯曲をつくり、彼女達の声でリーディング公演をしました。



ベトナム北部マイチャウ村にて

地域の人と創造の現場を共にする

パネラー：国松希根太さん
(彫刻家 / 飛生アートコミュニティ代表)

飛生アートコミュニティに所属する彫刻家です。2002年に飛生に移り住み、そこで生活しながら制作を続ける中で、アトリエという創造の現場を芸術祭の会場とした理由や、周囲の人との関わりなどをお話する予定です。



「飛生芸術祭 2016」でのアヨロポラトリート石川直樹のアヨロ パラレルワールド

文化と社会の「生態系」とは?

パネラー：大澤寅雄さん 7/22, 9/16両日参加
(文化生態観察 / アートNPOリンク理事)

文化と社会の関わり方を「生態系」と捉えて観察しています。福岡県糸島市の「糸島芸術」という芸術祭に関わりながら、マレビト(稀人)としてのアーティストとマレビト(客人)が出会う場や装置についてお話しします。



糸島芸術の風景